

せせらぎと緑 溢れる生命力

湧き出る水、水辺にそよぐ草木、そこに暮らす生き物たち。自然が織りなす非日常の景色が広がっています。



潮井自然公園マップ



8月31日まで親水エリア臨時開放中

水遊び場と芝生広場を臨時開放しています。現在も工事中の箇所は、ネットを設置していますので立ち入らないようにしてください。
小さな子どもを遊ばせる場合は、目を離さないようにしてください。

キャンプ場利用申請受け付け中

キャンプ場を、土日祝日のみ無料で貸し出しています。キャンプやバーベキューで利用する場合は、申請フォーム(二次元コード)で申請してください。先着順で受け付け、許可証を発行しています。
町ホームページに掲載している利用ルールをご確認ください。



地震後に生まれた魅力も生かした公園に

益城町と西原村の境に位置する杉堂地区の潮井。約800年前の古文書に記された「塩いと大明神」という名称や、大正時代に発行された絵はがきなどから、この地が古くから水源地、そして観光地として知られていたことが分かります。
自然公園の整備は、平成6(1994)年に当初基本計画の策定、平成23(2011)年に基本計画の修正を行い、平成25(2013)年度から始まり、平成28(2016)年熊本地震により大きな被害を受け、公園整備事業も一時休止を余儀なくされました。同じく被災した四賢婦人記念館(当時は津森小のそばに立地)の原位置での再建が困難となり、四賢婦人の一人・竹崎順子の生家がある杉堂地区の本公園が移転候補地に選定されたことから、平成30年度に公園整備を再開。布田川断層帯の国天然記念物指定や、県震災ミュージアム構想への位置付けなど、公園を取り巻く環境は大きく変わりました。



亡き所有者と交わしたバショウを残す約束

もりかわきょういち
森川恭一さん

公園の整備に当たり、25軒ほど土地の持ち主を訪ねました。そのうちの一人がバショウを植えた人の娘さんで、「バショウを残してくれるなら」と土地の使用を許可してくれました。公園整備の打ち合わせなどでその思いを伝え、バショウを残すために力を尽くしてきたので、約束を守れたことをうれしく思います。
公園ができるのを楽しみにしていた娘さんは数年前に亡くなり、この景色を見せることはできませんでしたが、きっと喜んでくれていると思います。

水辺で存在感を放つバショウ

令和5年1月から利用を開始した大型複合遊具、令和6年3月から貸し出しを開始

したキャンプ場に続き、現在整備を進めているのが親水エリア。潮井水源から湧き出る清らかな水や、水辺の植物などに触れることができる水遊び場です。湧き出す水の勢い、サワガニ・コイなどの姿に自然のエネルギーを感じます。中でも目を引くのが、南国感漂う大きな葉を持つバショウ。かつて土地の所有者が植えたもので、潮井を象徴する植物として非日常の空間を作り出しています。